

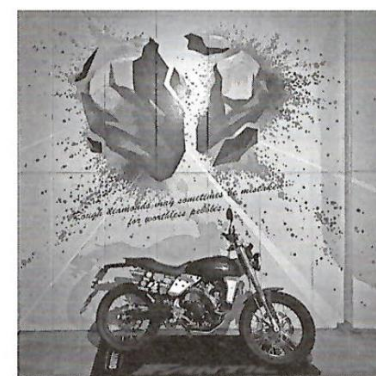
雑誌掲載記事集

2021年1-3月 SYM

1. ランブレッタなどの総輸入代理店がモータリストに移行
2. 部品供給は最重要。「正直な商売」信念に（編集長インタビュー）
3銘柄の輸入販売元に
3. WeBike紙上モーターサイクルショー（SYMブランド紹介）
台湾から来たベストサイズスクーター（Joymax Z紹介）
4. オートバイ125購入ガイド
カタログ紹介
5. モータリスト・ファクトリーがOPEN！
- 6-8. トップインタビュー（MOTORISTS代表インタビュー）

ヤングマシン 3月
二輪車新聞 2月19日号
二輪車新聞 1月1日号
WeBike マガジン
Lady'sBike 1月号
オートバイ125購入ガイド
モトチャンプ 2月号
単車倶楽部 3月号
BDS Report 3月号

ヤングマシン
(内外出版)
21年3月号



↑本社事務所兼サービスセンターの「モータリスト・ファクトリー」は既に移転完了。独特なウォールペイントが目印だ。■東京都大田区仲六郷2-41-8 ☎03-3731-2388 <https://motorists.jp/>

全だ。ビス体制も万
を、サ
を見学できる
て車両や商品
した。安心し
ル、内に用意
ーターサイク
内の、イズモ
同じく大田区
ヨールームを
を展示するシ
を展示するシ
ヨールームを
同じく大田区
内の、イズモ
ーターサイク
ル、内に用意
した。安心し
て車両や商品
を見学できる
ともに、サ
ビス体制も万
全だ。

今までサインハウスの車両事業部が扱ってきた、ランブレッタ、ファンティック、SYMなどの輸入バイク事業が「モータリスト合同会社」に譲渡されることになった。
モータリストは、サインハウ

ス車両事業部が新設した会社で、同社長だった野口英康氏が代表を務める。これにより車両販売およびアフターサービスに一段と注力していく。
オフィスは、東京都大田区の国道15号線沿いに設置。全商品を展示するシ

新設
ランブレッタ、SYMなどの総輸入
代理店が新会社モータリストに移行



↑EDGE COMPOSITESによるキャバレロ用のラジエーターサイドプロテクター（2万3100円）、マフラーヒートガード（1万4850円）などを販売開始。さらに今後ラインナップを拡大予定だ。

併せて、英国のカーボンバーツメーカー「EDGE COMPOSITES」の国内取り扱いを開始。ファンティックのキャバレロ用にモータリストが提案したパーツを販売していく。

誌上モーターサイクルショー

ピックアップバイクブランド

SYM

スクーター大国として知られている台湾を代表するブランド「SYM」。
ホンダと技術提携を結んできた歴史もあり、
高い品質と前衛的なデザインで、
欧州をはじめさまざまな国で人気のあるバイクメーカーだ。



Jet-X

最新装備で固めたプランニューモデル!!

SYMが2021年に導入する最新モデル「Jet-X」。約13PSを発生させるハイパワーな125cc 4ストロークシングルエンジンを搭載。これまでステップスルースクーターを中心にモデル展開を行ってきたSYMだが、125ccクラスのPCXなどと真向から勝負するデザインで参入する。スーパースポーツモデルを彷彿させる

精悍なフェイスマスクと人間工学を優先的に考えられ素で扱いやすさされたシャシー、さらにはヘッドライトをはじめ各部LEDの装備、キーレスエントリーシステムや大型LCDディスプレイの採用など、新時代のプレミアムモデルを体現する。4月から生産開始が予定されており、価格は36万3000円。



CRUISYMBOL α

欧州で大ヒットするビッグスクーター

余裕のある車格で優雅なクルージングが楽しめる人気のCRUISYMBOL αがモデルチェンジ。車検が不要な最大排気量である250ccエンジンを搭載し、フルフェイスヘルメット2個を収納する大容量ラゲージスペースで高い利便性を誇る。大型2灯ヘッドライトや高さ調整が可能なウインドスクリーン、折りたた

み可能なバックミラーなど、従来モデルの基本構成を引き継ぎながら、Euro-5に対応しつつ電子装備を充実させている。今では貴重となった250ccクラスのクルーザーモデルは、市街地のコミューターとしてもツーリングバイクとしても活躍するぞ。69万9600円。



NHX

普段使いに最適なストリートファイター

欧州市場で人気を博してきたSYM製ストリートファイター&アドベンチャーセグメントの小排気量モデルが、満を持して日本市場にも登場することが決まった。ストリートファイタースタイルでまとめられた「NHX」は、低くセットされた特徴的な縦2灯ヘッドライトや、軽量な車体を振

り回して走らせるのに最適なバーハンドルを備えており、バイクを操る楽しさを存分に味わえる一台。ランニングコストを抑えられる125ccモデルと、余裕あるパフォーマンスを有する200ccモデルがラインアップされ、それぞれ33万円、36万3000円というプライス。



NHT

洗練されたデザインと扱いやすい車格

上で紹介しているNHXと同系シャシーとエンジンを採用しながらも、アドベンチャーモデルとしてまとめられた「NHT」。マニュアルミッションモデルならではの走りの楽しさを得られるうえに、19インチサイズのフロントタイヤを採用しており、ストリートユースだけでなくオフ

ロード走行もチャレンジしなくなる「バタージュ」とされている。コンパクトクラスとは思えないほど洗練されたアドベンチャースタイルとなっているのでぜひともその目で実感を確認して欲しい。125ccモデルの価格は33万円、200ccモデルは36万3000円。



Orbit

気軽に乗れるベーシックタイプならコレ

クラスを超越した車格と走りを持ちながらも、手を出しやすい価格帯で一躍人気モデルとなったオービット3は、今期からEURO-5対応モデルとなり少々値上がりとなった。その穴を埋めるボトムラインにスタンダードモデルとなる「オービット」を新規導入。シンプルかつ使い勝手のいいデザインであり、昨今

モデル数が減ってきている50ccエンジンスクーターというの興味をそそる。なんといっても16万2800円という低価格設定なので、第一候補を探しているかたは必見。オービット3(50cc、125ccの2モデルあり)も継続販売されるので、こちらと比較するのも面白いだろう。



DRG-BT

戦闘機型コンパクトスクーター

高速道路も利用できる軽二輪クラス(158cc水冷4ストロークシングルエンジン)でありながら、ステップスルーとした使い勝手のいいコンパクトスクーターであり、抜群のスポーティさを誇る「DRG BT(ディーアルジー・ピーティ)」。フルフェイスヘルメットをも収納する広々としたシート下ユーティリティスペースを備

WeBike! マガジン

(WeBike)

21年モーターサイクルショースペシャル

Lady'sBike

(クレタ)

21年1月号

SYM JOYMAX Z250

台湾から来たベスト
サイズスクーター

250ccスクーターとしてはコンパクトな車格でありながら、フルフェイスヘルメットが2つ入る大型シート下トランクを備えている。グローブボックス内のUSBチャージャーや2段階に調整可能なウインドスクリーン、見やすいツインアナログメーターなど充実した装備をもつ。バンク角は37度確保されているのでアクティブに走ることも可能だ。コストパフォーマンスの高さも魅力。



< spec. > ●全長×全幅×全高: 2,190×760×1,450(mm) ●軸間距離: 1,546mm ●シート高: 747mm ●車両重量: 184kg ●エンジン型式・排気量: 空冷4ストローク OHC 単気筒・249.4cm³ ●最高出力: 15.8kW (21.5ps) / 7,500rpm ●最大トルク: 23.5N・m(2.39kgf・m) / 5,500rpm ●燃料タンク容量: 12ℓ ●タイヤサイズ: F=120/70-14・R=140/60-13 ●価格: 49万5,000円

オートバイ125購入ガイド
(モーターマガジン)
21年版



SYM

Orbit III 125i

価格 22万5500円(125単色)/23万6500円(125シートーン)

カラー イエロー・グレー、マットブラック、ホワイト、レッド、ブルー

<エス・ワイ・エム オービットスリー125i>

モータリスト合同会社での取り扱いが始まった台湾のメーカー・SYMのベーシックなスクーター。コンパクトで使い勝手の良い造りのボディは共通で、いずれもEURO4をクリアしたクリーンな空冷エン

ジンを搭載する原付二種の125ccモデル。前後12インチホイールを装着して優れた安定性を備え、フロントはディスクブレーキで前後運動のCBSも装備。価格が低く抑えられているのも魅力。

全長×全幅×全高
1813×680×1125mm
ホイールベース1290mm
シート高790mm
車両重量115kg

①空冷4スト2バルブ単気筒 ②124.6cc ③52.4×57.8mm ④10.7
⑤10.2PS/8500rpm ⑥0.94kg-m/6500rpm
⑦フューエルインジェクション ⑧5.7L ⑨— ⑩CVT
⑪ディスク・ドラム ⑫110/70-12・120/70-12

SYM

JET S

価格 34万9800円

カラー ホワイト、マットグレー、ブルー

<エス・ワイ・エム ジェット・エス>

SYMの125ccモデルの中で人気のスポーツスクーター・JETシリーズの最新モデル。剛性の高いフレームにVGS可変ジオ

メトリサスを組み合わせ、より高い安定性を実現しながら、ワインディングなどで軽快かつスポーティな走りを楽しめる。

全長×全幅×全高
1813×705×1095mm
ホイールベース1290mm
シート高790mm
車両重量129kg

①空冷4スト2バルブ単気筒 ②124.6cc ③54×54.4mm ④10.8
⑤11.5PS/8500rpm ⑥1.02kg-m/6500rpm ⑦フューエルインジェクション ⑧6.8L ⑨— ⑩CVT ⑪ディスク・ディスク
⑫110/70-12・120/70-12

モトチャンプ
(三栄)
21年2月号

SYM

オービットⅢ50

16万5000円

コスバ最強、
17万円切り!

前後に12インチタイヤを履くスポーツスクーター。125と共通の車体でシート下にはフルフェイスがきっちり収まる。便利なUSBポートも装備する。



空冷 4スト キャブ
Color: ●●●●●

台湾

SPECIFICATIONS

排 50cc
サ 1915×680×1125mm
シ 765mm
ps 3.5ps/7500rpm
ト 0.35kg-m/6500rpm
重 107kg
ガ 5.7L
ブ:ディスク・ドラム
タ:110/70-12・120/70-12

SYM

ジェットS

34万9800円 台湾モータリスト

SPECIFICATIONS

排:124.65cc サ:1813×705×1095mm
シ:-mm ps:11.6ps/8500rpm
ト:1.03kg-m/6500rpm 重:-kg
ガ:6.8L プ:ディスク・ディスク
タ:110/70-12・120/70-12

旋回時の安定性を高める可変ジオメトリ構造サス(VGS)により最大45度のバンク角を実現。約11.5psを発揮するエンジンや前後ディスクブレーキも注目。



台湾発のスポーツ
スクーター

空冷 4スト FI
Color: ●●●●●

台湾

SYM

オービットⅢ

22万5500円 台湾モータリスト

SPECIFICATIONS

排:125cc サ:1915×680×1125mm
シ:-mm ps:10.2ps/8500rpm
ト:0.95kg-m/6500rpm 重:-kg
ガ:5.7L プ:ディスク・ドラム
タ:110/70-12・120/70-12

19年発売のSYM気鋭作。φ226フロントディスクブレーキはリヤ連動で安心感大。フルフェイス+αが収まるシート下やUSBソケットは日常使いで便利だ。



街に馴染む
ユニバーサル
デザイン

SYM

DRG BT

44万9900円 台湾モータリスト

NEW MODEL



走りもインパクト大
唯一無二の存在感!

約15psを発揮する水冷エンジンやほぼ水平にマウントしたリヤショック、さらに車重配分が前後半々でスポーツに磨きかけた。

SPECIFICATIONS

排:158cc サ:1990×735×1130mm シ:-mm
ps:14.8ps/8500rpm ト:1.57kg-m/5500rpm 重:-kg
ガ:7.4L プ:ディスク・ディスク
タ:120/70-13・130/70-13



IMPRESSION

「新型水冷エンジンはバルス感があってトルクフル。80km/hまで一気に加速する。車体はやや腰高で足まわりはハード。前後13インチは安定感も高い」(ケニー佐川)

SYM

ジョイマックス250

49万5000円 台湾モータリスト

良いトコ取りのミドルサイズ

フルフェイスが2個収まる大型タンク、12L容量の燃料タンク、2段階調整スクリーン、USBソケットなど長距離走行にうってつけ!

SPECIFICATIONS

排:249.4cc サ:2190×760×1450mm シ:-mm
ps:21.5ps/7500rpm ト:2.4kg-m/5500rpm
重:-kg ガ:12.0L プ:ディスク・ディスク
タ:120/70-14・140/60-13



SYM

クルーシム250

64万9000円 台湾モータリスト

アドベンチャー風のワイルドなデザインが魅力。照明付きシート下収納はフルフェイス2個を飲み込み、2段階スクリーンなどでツーリングの良き相棒に。



快適性に
走破性をプラス

NEW MODEL

SPECIFICATIONS

排:249.4cc サ:2175×760×1440mm シ:-mm ps:21.5ps/7500rpm ト:2.4kg-m/5500rpm
重:-kg ガ:12.0L プ:ディスク・ディスク
タ:120/70-14・140/60-13



ファンティックの主力となるスクランブラーシリーズ。125、250、500ccの3種類がラインナップされているのだが、基本的にシャーシは同一でエンジンが違ふものだ

ランプレッタ、ファンティック及びSYMを取り扱う「モータリスト・ファクトリー」新ヘッドオフィスが誕生した！お洒落感漂うこの空間には2021年の未来漂うバイクが詰まっている!!

PHOTO&TEXT: NANDY KOSUGE (Office NANDY)



新年早々にオシャレなバイクを扱うお洒落な新店舗が大開店!!



「各ブランドとのつながり、国内のお客さまとのつながりを大切に、今後も最前線を走る覚悟です」と新店舗で意気込みを見せる、代表の野口さん

テーブルを一つとっても洒落た感じが出ているでしょ？他車種オーナーであっても、この空間にいたことが至福な気持ちになりますよー

ファンティックからリリースされているフラットトラックシリーズの名が刻まれているロブスター×ファンティックのキャップ (¥4,550/税別)



一階の奥には整備スペースが設けられている。新作オプションパーツなどを取り付けた車両はここでいち早く見れることだろう。なお、社用車のハイエースはトラック仕様にカスタマイズされている。これも気になる人は多いのでは？

モータリスト・ファクトリーは京急本線雄略駅から徒歩2分、国道15号線沿いに位置し、首都高速1号羽田線の羽田IC、大師ICからも近い。新旧ランプレッタも置いてますよ！

『モータリスト・ファクトリー』がOPEN!!



モータリスト・ファクトリーにドーンと描かれた壁面が眼事。その前に展示されていたのはエンデュロ50というファンティック製の2ストローク489cc。とてもミニバイクとは思えない迫力がありますね。壁の前に自分のバイクを置いて撮影する……なんて映せることも可能です！

オシャレで楽しい外車を見たいなこちら！
2021年10月に新オープンしたのがこちらの「モータリスト・ファクトリー」。「モータリスト」とはモーター・エンジンを用いて車輪を駆動する、人生を豊かにする乗り物をこよなく愛する皆様の総称として名付けられたもの。……となればスタッフの方々ももちろん全てモータリストなのは当然だ！
取り扱っているのはランプレッタ、ファンティック及びSYMといった海外ブランドのモーターサイクル。そして電動アシスト付き自転車「eBike」の輸入販売にも関しても挑戦して行われる。
更にプレミアム・モーターサイクル・アパレルブランドである「Pando



モータリスト

東京都大田区仲六郎2-41-8
TEL: 03-3731-2388
<https://motorists.jp>

Motorist やオフロードライダーに安心と安全のプロテクションを提供するプレミアム・ブーツブランドの「TOX」といった取り扱いもあり、それら商品は実際に手にするこどもももちろん、購入も可能な嬉しい限り。
今までになかったオートバイの楽しみを提供してくれる場所が「モータリスト・ファクトリー」是非足を運んでみて欲しい所存だ！

● 今後のバイク業界を占う ●
シリーズ
“The Top Interview”

モータリスト合同会社 代表

野口 英康

マツダ時代に海外経験を10年。その後、フォードによる経営権の取得を機に二輪の世界へ。ハーレーではビューエルの統括責任者として、その後のKTM、サインハウスでは社長として業績向上に大きく寄与した。そしていま、海外3ブランドを引っ提げ、新たな挑戦を開始した。

The Top Interview / vol.23

—— 今度は何を仕掛けるのだろう。野口さんにはそんなイメージがあります。昨年12月にモータリストを設立されましたが、まずは野口さんの経歴と会社設立に至るまでの経緯を教えてください。

野口 元々は自動車メーカーのマツダに10年間、勤務していました。商品企画を担当し、北米マツダにも1991年から97年までの6年間駐在していました。マツダはアメ

怖いほど壊れま
に奇跡に近いと

の頃、アメリカでは三パンが大人気でクライスラーはホイジャー、フォードはクラブワゴンを発売し、それが大ヒットしていました。そんな時、トヨタはアメリカでフレビア（日本名 エスティマ）をマツダはMPVを発売したところ、大ヒットしました。これがダンピングにあたるということで、ビッグ3が訴訟を起こしたのです。その時の対応が私が担当した最初の案件でした。

—— マツダを去る決断をした理由は。

野口 フォードがマツダの経営の舵取りを行うようになったことで、マツダに期待していたことが、マツダでやりたかったことが変わってしまったからです。マツダを退職する時は、いくつかのメーカーから「来ないか」と声を掛けて頂きました。確かにフォードにいたほうが安定していたとは思いますが、もう自動車メーカーには行きたくなかったので、声を掛けて頂いた企

業の一つであるハーレーダビッドソン・ジャパンに入社しました。

—— ハーレーでは何を。

野口 ハーレーに入社し、その後、100%子会社だったビューエルに出向し、統括責任者として業務を行いました。また、それと並行しハーレーの技術者として、アフターサービスやメカニック

のト
レーニ
クなども担当し
ました。ハーレー
は輸入会社なので、当時は技術系のスタッフが一人もいなかったのです。私はエンジニアでもあるので、ハーレーのテクニカルサービス全般を担当する仕事も行いました。その他、本国のサービスマニユア

ランブレッタは
せん。これはまさ
思います。

ルの翻訳も行ったし、最終的には仙台にある「赤門自動車整備専門学校」と東京の「東京工科専門学校」にハーレーの技術者養成クラスを立ち上げました。私がハーレーに入社した時は、販売台数は年間9000台でしたが、私が退職する頃には倍の1万6000台にまで伸びました。一方のビューエルは、台数が伸びず、2008年のリーマンショックがファイナルクライシスとなり、ついには会社自体がなくなりました。ハーレーには4年間在籍しました。

—— その後はKTMの社長に就任されました。

野口 ビューエルというメーカー自体がなくなつたため、ハーレーを退職する決意を固めました。KTMからは、ハーレー時代にずっとタイマーを受けていたので、そのタイマーでお願いすることにしました。入社時は副社長待遇でしたが、その後、社長のポストに就きました。KTMで

● 今後のバイク業界を占う ●
シリーズ
“The Top Interview”

社長として仕事をしたのは、ちょうど5年間でした。その後、四輪インポーターの仕事をして2年ほど行った後、サイン・ハウスの社長に就任しました。これもオファーを頂いたため、お引き受けしました。まさに「引っ張りだこ」ですね。

野口 とてもありがたいお話です。基本的に私はあまり断りません。もうそんな時々の事情が許せばの話ですが、ご縁を頂いた方々のお話はしっかりと聞きます。サインハウスでは、スタッフの協力のもと、1年間で売上を30%伸ばしましたが、諸事情により当時、サインハウスが扱っていたオートバイ販売の権利と在庫車両を買取り、新会社を立ち上げるのになったのです。取扱いブランドはランプレッタ、ファンティック、そしてSYMです。設立は昨年12月のことです。

—— 会社は合同会社です。珍しい形態ですが、どのような理由があるのでしょうか。

野口 ビジネスの道筋をつけるのが私の仕事だと思っています。これが整えば後進に道を譲ろうと考えています。でも、会社が株式だと株の譲渡が必要となります。いまの若い人は、そんなお金をそう簡単には作れないでしょう。合同会社だと会社を譲る時の煩わしさを省けるので、あえて株式にはしなかったというわけです。

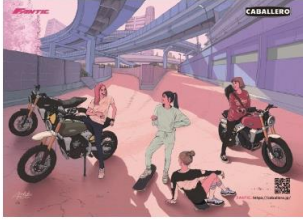
—— 独立後は様々な声が聞かれるようになったと思います。

野口 そうですね。不安視されるかたもいらっしゃると思います。そんな時は、私かどのような考えのもと、この事業を始めたのか、どういったバックグラウンドがあるのか、どのようなスタッフがどういったテクニカルサービスを展開するのか、といった説明をお聞きします。まずはランプレッタ、現状の動きはどのような感じでしょうか。

私たちの仕事は、販売店様の要望をカタチにすること

—— 3ブランドについてお聞きします。まずはランプレッタ、現状の動きはどのような感じでしょうか。

できました。販売店様でも月に1台はコンスタントに売れるようになってきています。お客様に対して、メーカーについて事細かに説明をさせて頂くケースは少なくなりま



したね。私が、ランプレッタを取り扱っていて良かったなと思うのは、今まで出会ったことのないお客様に出会えることです。以前はハーレーやKTMなど、スクーター以外のモデルを扱ってきたため、スクーターに乗るお客様との接点はほとんどありませんでした。けれどもいまは、ファッションやライフスタイルを重視する考え方に触れることで、彼らの趣味や趣向が理解できるようになりました。弊社と弊社の商品を扱って下さっている販売店様にとって、非常に大きな収穫だと思います。

います。

—— ランプレッタには独自の世界観がある。

野口 そうですね。他メーカーのスクーターと比較される方も多いのですが、具体的に比較した方ほど、ランプレッタがいい、と言って下さいます。支持される理由は2つあります。一つはスタイリング。ランプレッタが好きな方の多くは、そこにレトロなファッショニ性を求めます。こいつ方は、まさにベストマッチです。けれども、ランプレッタが現代風のデザインだったら、ランプレッタを買う必要はないと考えるのです。も一つはトファルの少なさ。サインハウス時代も含め3年扱ってきましたが、怖いほど壊れません。これだけ壊れないのは奇跡に近いと思います。この話をすると、販売店さんばかり安心されます。

—— それは大きなアピール材料ですね。では、ランプレッタの取扱店を増やすための活動と既存店への対応については。

野口 弊社の仕事は、販売店様がバイクを売るためのお手伝いをすることです。弊社ならこいつのお手伝いができます、と提案したうえで、数ある商材の中に、ユーザーに提案できる良い商材を一つ増やしませんか、とアプローチします。すでに弊社の製品を扱って頂いている販売店様には、こちらから「〇〇をやってみよう」という依頼は一切行いません。もちろん提案はさせて頂きますが、あくまでも主体は販売店様。そういったなかで、例えば店で試乗会をやりたい、と希望すれば、私たちが試乗車を用意します。販売店様の意図が固まったら、徹底的にお手伝いをさせて頂く。つまり私たちの仕事は販売店様の要望をカタチにすることなんです。

—— 現在の販売代理店の数と販売台数目標は。

野口 全国で40店です。ただ、店を増やすというよりは、確実に毎月コンスタントに一定台数を販売できる販売店を30店くらい作り、そこをコアに展開しようと考えています。台数目標は年間400台。数年かけてその水準にまで引き上げます。ただ125cc、200ccのマーケットの年間販売台数は10万台ちやうと。その中の400台ですから、微々たるもの（笑）。マーケティング的には、全然小さな目標です。不可能でない数字に向かいたい、というのが私の考えです。

—— ファンティックについてはどうでしょう。

野口 日本は80年代半ばにはトライアルブームが発生しました。インポーターも存在したのですが、ブームの終焉とともに輸入業者も何社が変わったため、イメージとしては新しく感じられると思います。一部、年配の方からは「ファンティックって、トライアルのファンティック？」と聞かれることが少なからずありま



ん。そこで以前、BDSさんの会場で車両を展示させて頂きましたが、これにのちの名前も徐々に浸透し、昨年の夏頃から徐々に売れるようになって

きた。数年かけてその水準にまで引き上げます。ただ125cc、200ccのマーケットの年間販売台数は10万台ちやうと。その中の400台ですから、微々たるもの（笑）。マーケティング的には、全然小さな目標です。不可能でない数字に向かいたい、というのが私の考えです。

すが、ほとんどの方はご存知ない。「このメーカー」という質問から会話が始まることが多いですね。取扱店は現在の取扱店は全国30店で目標販売台数は年間8000台です。私はそれくらいは販売できる力のあるメーカーだと思っています。

——海外での評価は。

野口 ファンテックはヨーロッパでしか販売されていません。北米での販売もなくアジアでもファンテックを売っているのはウチだけです。今年からよくオーストラリアでも販売される予定です。生産はすべてイタリア国内なのですが、ここには強い拘りがあるのです。ファンテックをひとりで表現すると「真面目な会社」と言えます。3度目の再生となる今回は、イタリアの投資家集団が出資し復活したのですが、そのグループのオーナーはイタリアにある企業にしか出資しません。世界に向けて製品を発売できるようなイタリア企

業を育てることを目的としているからです。投資し成長したら売り抜くという考えではないのです。これは余談ですが、ミラノで開催されるエキマでプレゼンテーションを行う時は、どのメーカーも英語で話します。けれどもファンテックだけはイタリア

電動モビリティの時代を先取りした楽しさの提供は十分に可能

——大きな安心材料ですね。次に、SYMはどうでしょう。野口 ご存知の通り紆余曲折がありました。ホンダ車のOEM生産を請け負っていたメーカーであり、現在はピュンタイの四輪車も生産している。技術力があります。KYMCOのような、斬新な技術やきらびやかさはないけれど、真面目に製品を作っている。良く走るレスポーターだし壊れないんです。職人気質な感じですね。シェアについては、台湾ではKYMCOには及ばないものの、高い

ア語で通ず。もちろん英語は話せますが、そこはあえて曲げないんです。我々はイタリアの企業である、という主張ですね。それがプライドなのです。そういう姿勢が信頼にも結び付いているのかな。とプライドの高い人は、途中で投げ出したりはしないものな

シエアを誇ります。ヤマハとほぼ同等の16%ぐらいです。欧州では、国によって異なりますがSYMのシェアは高いですね。なかでもドイツでは根強い人気があります。話は逸れますが、ランプレッタはSYMの工場で生産しています。ランプレッタのスタッフが駐在しており、品質チェックを行っており、設計はイタリア人ですがSYMが製造委託を受けています。

——ユーザーのSYMに対する印象はどうでしょうか。野口 よく走る、という感想が多いです。世界的に製品供給が多いです。また、物流費（コンテナの運賃）もこの1年の間に驚くほど値上がりしました。航空便もかつてない需要の高まりから、国際貨物の運賃も高止まりしているのが現状です。

——この先、どのような展開を考えていますか。野口 オートバイの面白さを、可能な限り伝えていきたいと思っています。オートバイは、単なる「モノ」ではなく「乗って楽しむモノ」です。遊びの場を提供することで、オートバイの楽しさを伝えていきたいですね。その一環として位置付けているのが広告。ウチではすべてイベントを主体にした広告を掲載しています。ブランドがもっと楽しさをイラストで表現しているのです。他社ではあまり見ない手法だと思っています（と言って、雑誌の掲載ページを開く）。この広告は、販売店の要望に応じた、広告そのものをポスターにし、店に貼って頂いたりします。

——小池都知事が2030年までに都内で販売される新車すべてをハイブリッド車（HV）や電気自動車（EV）に切り替える方針を示しました。野口 それが世界的な潮流であれば、仕方のないことだと思います。過去にも技術の進歩、技術革新により壁を乗り越えてきたので、超えられないことはないと思います。個人的な好みで言う、私は内燃機が好きなのですが、販売とは別。その時代に適応できるような方法を考えるでしょう。幸いSYMはEVバイクを製品として持っていますし、ネットで発表するなど、産業界の手は打っています。ファンテックについてはさらに進んでいます。元々、このメーカーが復活したきっかけは、電動アシスト自転車であり、これが最初のモビリティだったのです。

——電動モビリティにも目が向く。野口 オートバイがEV化し

給が滞っているいまこそが、SYM拡販のチャンスなのだと思います。

——ということは、生産ラインは止まってないわけですね。

野口 正常に稼働しています。これは本体だけではなくパーツも同様。国内に多数、ストックしています。パーツは注文頂いたらその日のうちに出荷できる体制を整えています。国内メーカーと同等かそれ以上だと思っています。これはSYMに限らずランプレッタもファンテックも同様です。

——販売店数



モータリスト社内に展示されたCABALLERO Scrambler 500とFANTIC Enduro。2FにはeBikeを展示

価格が上がった。販売台数は減るでしょう。そこでポイントとなるのは、買わなくなった人に対する対策です。彼らの多くは、間違いなく楽しさを忘れたくないと考えている人々です。そんな彼らには、ファンテックの電動アシスト自転車を使った遊びを提案できるだろうと考えています。フルサスペンションのマウンテンバイクは、日本では高級車のグレードに入ります。一番安いものでも40万円台後半です。でも、モーターとバッテリーを備えたフルサスタイプの自転車としては、決して高いわけではないのです。バッテリーの容量は現在、日本で流通している電動アシスト自転車の中では最大クラス。モーターも、トルクウェイトレシオは世界一と言われているモノを積んでいます。このゾーンの製品は、弊社でもすでに抑えています。そういう意味では、違う種類の、しかも電動モビリティの時代を先取りした楽しさは、提供できると思っています。



と目標販売台数について教えてください。

野口 新車売っている販売店数は20店です。過去に販売経験のある販売店は300店ありまして、実際に動いている店は200店ほどです。リストを引き継いでいるので、確かな数字です。台数目標ですが、将来的には、以前のインボーターと同じ水準への引き上げを考えています。最も売った年で50000台で、その前後でも4000